

**Instrumental
Band
Ensemble**

Instrumental Ensemble - はじめに

練習に掛けた時間とその人の才能は等しい

音楽のスキルやセンスは、その人がどれくらい音楽に対し真剣に向き合ったか、どれくらい真剣に練習に取り組んだかによって変化してきます。

世界で活躍する一流ミュージシャン達もただ単純に音楽の才能に満ち溢れていたわけはありません。音楽を始めたばかりの初心者は「自分には音楽の才能があるのか?」「自分は音楽をすることに本当に向いているのか」といつも悩んでいます。しかし、音楽の才能は誰もが生まれながらに持っているものなのです。

人間は、何万年も前から音楽を奏で、その遺伝子が今も現代の人々の体に受け継がれています。しかし、その音楽の才能(遺伝子)が目に見えるくらいになるには1万時間の時間が掛かるといわれています。音楽に関わらずその他の分野でもプロフェッショナルといわれるクオリティーを手にするには、その1万時間というのが常識といわれています。このことは一見すると膨大の時間に感じるかもしれません、実はそうでもありません。この1万時間をクリアするには一日6時間を5年間継続すれば達成出来、学校に入学する前から楽器に触れている人であれば、入学前までに費やした時間も含めます。ということは1日6時間の練習をもっと長時間練習すればさらに1万時間を達成する期間が短くなるということになります。したがって、在学中に行うアンサンブルの授業やその他必修授業はあなたの音楽人生にとても大きく関わることになります。

プロミュージシャンになるための二大原則

- **演奏する機会を逃さない** - 授業、病気、仕事を除き演奏する機会があれば必ず演奏すること。それがあなたの音楽人生に大きく影響してきます。
「いつ、どこで、誰と、何を演奏するのか?」ということだけを重点的に演奏する機会を選別しているミュージシャンは、平凡なミュージシャンにしかなれません。
- **常に最高の演奏をする** - あなたが演奏する際、その対象が同級生や先生、音楽業界の方々など、どんな人の前でも常に最高の演奏を心がけ、最高の演奏をします。
このことは、自分のミュージシャンとしての評判を上げるだけでなく、あなたが目指すミュージシャン像に真剣に向き合うということに繋がります。そのためには演奏する曲を覚えたり、スタイルの勉強(アナライズ)をすることは勿論のこと、クオリティーを高めていくための反復練習が必要になってきます。

この二大原則を継続的に実行することによって、必ず素晴らしいミュージシャンになれることでしょう。どれか一つだけ実行しても素晴らしいミュージシャンになることは出来ません。必ずこの二大原則を実行することが必須となります。

演奏準備の鉄則

演奏する機会が授業にせよ、ライブにせよ、プロとアマチュアの違いはどれだけ万全の準備が出来ているか?ということになります。

- **資料を入手する** - ミュージシャンが曲を覚える際に必要なのは、譜面または音源資料です。もし両方を入手可能であれば早めに手に入れましょう。なぜなら、早めに手にすることにより、その曲に費やせる時間が増え、日々少しづつ演奏のクオリティーを上げることが出来るためです。
- **自分のことを知る** - 経験豊富なミュージシャンと経験の浅いミュージシャンとの違いは、1曲を演奏するための準備に費やす時間です。プロミュージシャンは譜面と音源をみることによって、その曲を演奏するためには必要な大体の時間を予測すること出来ますが、アマチュアミュージシャンにはそれが出来ません。そのため、演奏準備にプロミュージシャンの5倍~10倍の時間を費やすことがあります。
- **120%の原則** - 人前で演奏するときは100%の準備をしたと思っても実際は緊張や思わずトラブルから80%の実力しか発揮出来ません。したがって、準備は120%行わなければなりません。それが120%の原則です。
- **パート** - 曲をコピーする際は出来る限り原曲に近づけることが大切です。
それにより、イヤートレーニングや採譜能力の向上に繋がります。

プロミュージシャンへのはじまり

プロミュージシャンになるためには高い技術だけではなく、プロ意識、仕事への責任感が重要になってきます。

- **時間を守る** - 準備を万全にしても時間を守れなければ、自分の評価を落とすだけです。授業は常に時間を守り、プロ意識や責任感を養っていきます。
- **チューニング** - 演奏する前は必ずチューニングをする。
プロミュージシャンでチューナーを持っていない人は一人もいません。
- **楽器・機材** - チューナー以外にも仕事に必要と思われるものは自分のケースの中に入れ必ず持ち歩きましょう。(チューナー、メトロノーム、ケーブル、メンテナンス道具など)ドramaであればスティックなど。
- **譜面** - プロの現場では頻繁に演奏内容が変更されます。そのため、受け取った譜面は大切に扱いファイルなどに整理し、筆記用具を必ず持ち歩きましょう。

コミュニケーション力付ける

- **演奏開始前** - 演奏開始の合図(カウント)を出す人が他のメンバーに気を配り、演奏準備が出来ているが確認(コミュニケーション)をとることにより、演奏開始がスムーズに進みます。
- **演奏開始カウント** - 原則的に曲の始まりで合図(カウント)を出す人はダブルカウントを用います。そうすることにより他のメンバーが曲を演奏するまでに十分な時間が与えられ、より完璧な演奏開始が可能になります。
- **エンディング** - 原則的に曲の開始はドramaがカウントを出しますが、曲の最後もドramaが合図を出すとは限りません。エンディングでは誰が合図を出すが決まっていないため、メンバー間のアイコンタクトやボディーランゲージが必要です。

授業を有意義なものにするために

- **いろいろなミュージシャンと演奏する** - 出来るだけ多くのミュージシャンと演奏することにより、コミュニケーション力が向上し人脈が広がると同時に自分自身のプロモーション活動にもなります。
- **他のミュージシャンの演奏をよく聞く** - 自分と同じ楽器を演奏するミュージシャンのプレイをよく聴き、自分との弾き方やニュアンスの違いを見つけ、演奏力向上に努める。
- **アドバイスをよく聞く** - 先生から与えられるアドバイスを素直に受け止め、その他のミュージシャンに対するアドバイスもよく聞き、自分の演奏に置き換えましょう。

Week 1

第1回目のアンサンブル授業のテーマは、リズムに気をつけて皆と上手くコミュニケーションをとり、バランスよく演奏することです。そのためには曲の始まりと終わりでメンバー間とのアイコンタクト等の合図をしっかり出さなければいけません。

1 Amin F C G
5 C G Dmin F G
9 A♭ B♭ C
D.C. al Fine

Guitar Part 1: 音色をクランチに設定し、オープンコードで弾きましょう。

Amin F C G
Amin F C G

Guitar Part 2: 音色を少しドライヴに設定し、ブリッジミュートしたパワーコードを8部音符で演奏しましょう。

A5 F5 C5 G5
A5 F5 C5 G5

キーボード(=鍵盤楽器)の練習では運指がとても重要となります。運指とはどの音をどの指で弾くか、という事です。また、その動きを指します。場面に応じた運指が出来るかどうかで演奏力は大きく変化します。手の大きさには個人差があり、それによって有効な運指も様々です。自分にあった運指を早く見つけ、常に決まった運指で練習する事が重要です。

Keyboard Part 1: 全音符で運指の確認:

Keyboard Variation: リズムをつける:

Bass: コードとコードの繋ぎ目の音が短くならないように注意してプレイし、8分休符は左手か右手でしっかりとビートに合わせて Mute する。フレーズ的な所は音が繋がるように演奏する。

Am F C G

C G Dm F G \oplus

\oplus A \flat B \flat C

D.C. al Coda

Bass Variation:

Musical score for 'The Star-Spangled Banner' featuring two staves of 16th-note patterns. The top staff starts in A major (Am) and includes measures in F, C, and G. The bottom staff starts in C major (C) and includes measures in G, D major (Dm), F, G, and a section starting with a flat sign (F major). The score concludes with a section starting with a sharp sign (G major) and a 'D.C. al Coda' instruction.

Drum: カウントはダブルバーカウント(2小節カウント)で。曲がスタートするまでの助走期間が長く、メンバー全員のテンポ感が一致しやすい利点がある。他によくある始め方としては、1小節のカウントやピックアップフィル等がある。基本ビートに関しては、2小節パターンの繰り返しを的確に出来るようにする。4小節や8小節の大きな単位も感じる事ができるようにする。

Rock 8 beat $\text{♩} = 130$

Count Stick 1 2 3 4

(Repeat time "Fill")

(Repeat time "Fill")

D.C. al Coda

Fill Sample ① ② *Hat Open*

Week 2

1950 年代に西洋の古典和声とアメリカのブルースが融合してロックンロールが生まれました。また、ブルースもソウル、R&B、ファンク、ジャズなど、数えきれないジャンルの影響を受けています。このブルースというジャンルは、日本の俳句にとてもよく似て、俳句に五・七・五という音節があるように、ブルースにもこれとよく似た決まりが存在します。

ブルースの基本形は 12 小節から成りコード進行にもパターンが存在します。また、ブルースで使われるコードも”ドミナントコード”といわれる、7th コードが使われることが殆どです。

下記に挙げたコード進行にはいろいろな決まりや呼び方が存在するので先ずはそこから覚えましょう。まず、下記譜例の 2 小節目”(A7)”の箇所ですが、こちらは I のコードから IV のコードに行くことを意味し、この場合の IV コードに映る状態を”クイックチェンジ”といいます。また、最終 2 小節の I-V のコード進行の流れを”ターンアラウンド”といい、最初の I コードにスムーズに戻れるよう使用します。

この二つの言葉はプロミュージシャンの会話の中で頻繁に出てくる言葉であり、ブルースはこれから学ぼうとしている様々なジャンルの基本となるものなのでしっかり習得しましょう。

I	(IV)	I	I
IV	IV	I	I
V	IV	I	V

ブルースのコード進行は聴く人にとって自然な状態でなければなりません。

今週の曲を勉強する前に、上に挙げた例を参考に下記譜例の空欄に入るコード名を入れましょう。

12 小節の A メジャーブルース(クイックチェンジ):

A7			
D7			A7
	D7	A7	

12 小節の E メジャーブルース(クイックチェンジなし):

		E7	
		E7	
B7			

12 小節の C メジャーブルース(クイックチェンジ):

C7			

12 小節の Bb メジャーブルース(クイックチェンジなし):

Bb7			

基本的にブルースはシャッフルリズムから成っていますが、1950年代に代表される Johnny B. Goode/チヤック・ベリーや Good Golly Miss Molly/リトル・リチャードなどはストレートな8ビートが特徴です。それでは今週は12小節ブルース(クイックチェンジ)をロックフィールで演奏してみましょう。

Guitar: 以下にストレートフィール、シャッフルフィール両方に使える代表的なギターパートを挙げます。

キーボードでのブルース進行を練習します。ブルース進行は何度も練習して、パターンを覚えましょう。あらゆる調でのブルース進行が弾ける様になる事が理想です。

Keyboard Part 1: 全音符で運指の確認。

Keyboard sheet music for blues progressions. The music is in common time and uses a treble clef with a key signature of four sharps (F# major). The progression consists of four measures of E7, followed by four measures of A7, then four measures of E7, and finally four measures of A7. The notes are represented by open circles on a staff with five horizontal lines. Below each note is a number indicating the finger used: 5, 2, and 1 for the first three notes, and 5, 2, and 1 for the last note of each measure. The music then continues with four measures of B7, followed by four measures of A7, and finally four measures of E7, A, A#, and B. The notes are represented by open circles on a staff with five horizontal lines. Below each note is a number indicating the finger used: 5, 2, and 1 for the first three notes, and 5, 2, and 1 for the last note of each measure. The music concludes with a final measure of E7.

Keyboard Variation: 8 分音符。

Keyboard sheet music for blues progressions using eighth-note patterns. The music is in common time and uses a treble clef with a key signature of four sharps (F# major). The progression consists of four measures of E7, followed by four measures of A7. The notes are represented by vertical stacks of eighth-note heads on a staff with five horizontal lines. The music then concludes with a final measure of E7.

Bass: コードとコードの繋ぎ目の音が短くならないように注意してプレイし、あらゆるキーでも弾けるようにブルースコード進行をしっかり覚えてください。

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

98

99

100

101

102

103

104

105

106

107

108

109

110

111

112

113

114

115

116

117

118

119

120

121

122

123

124

125

126

127

128

129

130

131

132

133

134

135

136

137

138

139

140

141

142

143

144

145

146

147

148

149

150

151

152

153

154

155

156

157

158

159

160

161

162

163

164

165

166

167

168

169

170

171

172

173

174

175

176

177

178

179

180

181

182

183

184

185

186

187

188

189

190

191

192

193

194

195

196

197

198

199

200

201

202

203

204

205

206

207

208

209

210

211

212

213

214

215

216

217

218

219

220

221

222

223

224

225

226

227

228

229

230

231

232

233

234

235

236

237

238

239

240

241

242

243

244

245

246

247

248

249

250

251

252

253

254

255

256

257

258

259

260

261

262

263

264

265

266

267

268

269

270

271

272

273

274

275

276

277

278

279

280

281

282

283

284

285

286

287

288

289

290

291

292

293

294

295

296

297

298

299

300

301

302

303

304

305

306

307

308

309

310

311

312

313

314

315

316

317

318

319

320

321

322

323

324

325

326

327

328

329

330

331

332

333

334

335

336

337

338

339

340

341

342

343

344

345

346

347

348

349

350

351

352

353

354

355

356

357

358

359

360

361

362

363

364

365

366

367

368

369

370

371

372

373

374

375

376

377

378

379

380

381

382

383

384

385

386

387

388

389

390

391

392

393

394

395

396

397

398

399

400

401

402

403

404

405

406

407

408

409

410

411

412

413

414

415

416

417

418

419

420

421

422

423

424

425

426

427

428

429

430

431

432

433

434

435

436

437

438

439

440

441

442

443

444

445

446

447

448

449

450

451

452

453

454

455

456

457

458

459

460

461

462

463

464

465

466

467

468

469

470

471

472

473

474

475

476

477

478

479

480

481

482

483

484

485

486

487

488

489

490

491

492

493

494

495

496

497

498

499

500

501

502

503

504

505

506

507

508

509

510

511

512

513

514

515

516

517

518

519

520

521

522

523

524

525

526

527

528

529

530

531

532

533

534

535

536

537

538

539

540

541

542

543

544

545

546

547

548

549

550

551

552

553

554

555

556

557

558

559

560

561

562

563

564

565

566

567

568

569

570

571

572

573

574

575

576

577

578

579

580

581

582

583

584

585

586

587

588

589

590

591

592

593

594

595

596

597

598

599

600

601

602

603

604

605

606

607

608

609

610

611

612

613

614

615

616

617

618

619

620

621

622

623

624

625

626

627

628

629

630

631

632

633

634

635

636

637

638

639

640

641

642

643

644

645

646

647

648

649

650

651

652

653

654

655

656

657

658

659

660

661

662

663

664

665

666

667

668

669

670

671

672

673

674

675

676

677

678

679

680

681

682

683

684

685

686

687

688

689

690

691

692

693

694

695

696

697

698

699

700

701

702

703

704

705

706

707

708

709

710

711

712

713

714

715

716

717

718

719

720

721

722

723

724

725

726

727

728

729

730

731

732

733

734

735

736

737

738

739

740

741

742

743

744

745

746

747

748

749

750

751

752

753

754

755

756

757

758

759

760

761

762

763

764

765

766

767

768

769

770

771

772

773

774

775

776

777

778

779

780

781

782

783

784

785

786

787

788

789

790

791

792

793

794

795

796

797

798

799

800

801

802

803

804

805

806

807

808

809

810

811

812

813

814

815

816

817

818

819

820

821

822

823

824

825

826

827

828

829

830

831

832

833

834

835

836

837

838

839

840

841

842

843

844

845

846

847

848

849

850

851

852

853

854

855

856

857

858

859

860

861

862

863

864

865

866

867

868

869

870

871

872

873

874

875

876

877

878

879

880

881

882

883

884

885

886

887

888

889

890

891

892

893

894

895

896

897

898

899

900

901

902

903

904

905

906

907

908

909

910

911

912

913

914

915

916

917

918

919

920

921

922

923

924

925

926

927

928

929

930

931

932

933

934

935

936

937

938

939

940

941

942

943

944

945

946

947

948

949

950

951

952

953

954

955

956

957

958

959

960

961

962

963

964

965

966

967

968

969

970

971

972

973

974

975

976

977

978

979

980

981

982

983

984

985

986

987

988

989

990

991

992

993

994

995

996

997

998

999

1000

Bass Variation:

Musical score for the first section of the piece, featuring four staves of music. The first staff (Bass clef) has chords E7, A7, E7, and a measure with a 'X' symbol. The second staff (Bass clef) has chords A7, a measure with a 'X' symbol, E7, and a measure with a 'X' symbol. The third staff (Bass clef) has chords B7, A7, E7 (with a circle and slash), A7, E7A, A#B7. The fourth staff (Bass clef) has chords E7 (with a circle and slash), E7, F9E9. The score concludes with a dynamic instruction *D.C. al Coda*.

Drums: カウントに関して、歯切れよく発声した方がバンド全体のパルスの共有の精度が上がる場合が多い。12小節目にキメ絡みでフィルを入れてみよう。エンディングのブレイク時にフラムを使ってアクセントを強調した例を記譜してみた。クラッシュシンバルとバストラムのユニゾンによるアクセントワークは両者が確実に一致するまで何度も練習が必要です。

8 beat Blues $\frac{1}{8} = 126$

Count Stick

Bass Drums

Snare Drums

Foot Hats

Fill Sample

Week 3

今週はシャッフルフィールで演奏します。

前回練習した 12 小節ブルースを違うキーのシャッフルフィールで演奏しましょう。

1 G7 C7 G7

5 C7 G7

9 D7 C7 G7 C7 G7 C C# D

13 G7 G7 G#9 G9

D.C. al Coda

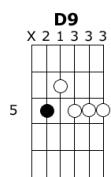
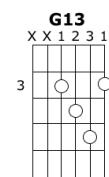
Guitar Part 1: 般的なシャッフルブルースのギターパート:

G7 C7

Guitar Part 2 (バリエーション): その他、一般的なバリエーション:

G7 C7

Guitar Part 3: ピアノの右手パートのボイシングを意識した一般的な演奏例:



G13 C9

Keyboard: シャッフルでのプレイ感覚を体で覚えることが大切です。4分音符でビートの頭を理解

Keyboard sheet music in G major (one sharp). The music consists of eight measures. The first three measures are G7 chords. The next three measures are C7 chords. The following two measures show a progression: G7, C7, G7, C7, G7, C, C#, D. The final measure is a G7 chord. The music is written on a single staff with a treble clef and a key signature of one sharp.

Keyboard Variation 1: 8分音符でのパワーコード
G7

Keyboard sheet music in G major (one sharp). The music consists of a single measure of eighth-note power chords. The chords are G7, B7, D7, E7, G7, B7, D7, E7. The music is written on a single staff with a treble clef and a key signature of one sharp.

Keyboard Variation 2: 頭を休符にしてシャッフル感の練習

Keyboard sheet music in G major (one sharp). The music consists of a single measure of eighth-note power chords. The chords are G7, B7, D7, E7, G7, B7, D7, E7. The first four notes of each chord are eighth notes, and the last four are sixteenth notes. The music is written on a single staff with a treble clef and a key signature of one sharp.

Bass: コードとコードの繋ぎ目の音が短くならないように注意してプレイし、3連符を感じつつ、2拍&4拍でタイミングをはかるよう演奏する。

Bass line for the first section of the score. The bass part consists of a single line on a bass clef staff. It starts with a 3/4 time signature, then changes to 2/4. The notes are primarily eighth notes and sixteenth notes. Chords marked include G7, C7, G7, C7, D7, C7, G7, C7, G7, and A¹⁹G9. A 'simile' instruction is placed between the first two G7 chords. A 'D.C. al Coda' instruction is at the end of the section.

Bass Variation:

Bass line for the variation section of the score. The bass part consists of a single line on a bass clef staff. It follows the same chord progression as the first section but with different note patterns. Chords marked include G7, C7, G7, C7, D7, C7, G7, C7, G7, and A¹⁹G9. A 'simile' instruction is placed between the first two G7 chords. A 'D.C. al Coda' instruction is at the end of the section.

Drum: カウントに絡めてシンプルなフィルでスタートさせる。ハイハットやライドシンバルでの「刻み」が非常に重要。拍のアタマとウラのニュアンス出しにチャレンジしよう。譜面は3連符表記してあるが、厳密には書き表す事が難しいタイミングのフィールも多い。コーダに入る手前(エンディング前)には「終了」の気配を感じさせるフィルがあると音楽的。

Shuffle Blues $\text{A} \cdot \text{A} \cdot \text{A} \cdot \text{A} \cdot \text{A} \cdot \text{A}$

Count Stick
1 X X 2 X X 1 X 2 X 3 X >

(D.C. time "Fill")

Foot Hats

D.C. al Coda

Fill Sample ① ②

The musical score consists of several parts. At the top, there is a 3/4 time signature with a 16th-note pattern. Below this is a stick count: 1 X X 2 X X 1 X 2 X 3 X >. The main part of the score is a 3/4 time signature with a 16th-note pattern. In the middle, there is a section labeled '(D.C. time "Fill")' with a stick count: 1 X X 2 X X 1 X 2 X 3 X >. Below this is a section labeled 'Foot Hats' with a stick count: 1 X X 2 X X 1 X 2 X 3 X >. At the end of the score, there is a section labeled 'D.C. al Coda'. At the bottom, there are two fill samples labeled ① and ②.

Week 4

多くの場合ブルースは 12 小節で演奏されますが、まれに 8 小節のブルースも演奏することがあります。この 8 小節ブルースもブルースの基本形の一つで、コード進行にも一つのパターンが存在します。一つの例として、“Key to the Highway”/ Charlie Segar という曲があります。この曲は 数えきれないほどのアーティストによってカバーされ、1958 に発表された William “Big Bill” Broonzy/Little Walter”や 1970 年に発表された Eric Clapton の曲にもこのコード進行が使用されています。今説明したコード進行を下記へ挙げますので練習してみましょう。

I	V	IV	IV
I	V	I	V

上記コード進行を参考に、下記譜例の空欄に最適なコード進行を書きましょう。

8 小節の A メジャーブルース

A7			
A7			E7

8 小節の C メジャーブルース

C7			

8 小節の G メジャーブルース

G7			

それでは 8 小節ブルースをシャッフルフィールで演奏してみましょう。
 まず、最初の 8 小節は基本的な 8 小節ブルースのコード進行ですが、後半に”ブリッジ”が存在します。
 この”ブリッジ”は 8 小節及び 12 小節ブルースに頻繁に使用されるのでしっかり覚えましょう。

A7 E7 D7

A7 E7 D7 A7 E7

D7 A7

9 13 D.C. al Coda

17

Guitar:

A7 E7

Keyboard: ブルース進行の応用。キーボードでの役割を練習します。8分音符でのパワーコード

A7

Keyboard: パワーコードに動きを付けた練習

A7

Bass: コードとコードの繋ぎ目の音が短くならないように注意してプレイし、フレーズ的な所は音が繋がるよう演奏する。

A

A7 E7 D7 ✕

simile ~

A7 E7 A7 D7 A7 E7

D7 ✕ A7 ✕

B

D7 ✕ B7 E7

A7 A7

D.C. al Coda

Bass Variation:

A

A7 E7 D7 ✕

simile ~

A7 E7 A7 D7 A7 E7

D7 ✕ B7 E7

simile ~

B

D7 ✕ A7 D7 A7 E7

A7 A7

D.C. al Coda

Drum: この表記の仕方もよく目にするパターン。普通の8ビートと混同しないように必ず最初に注釃を入れてある。前半はハット、後半はライドと打ち分ける等するとサウンドに広がりが生まれる。エンディングはハットオープンを使った少しラウドな例である。

Shuffle Blues $\text{♩} = 120$

Count Stick 1 2 1 2 3

(D.C. Time Repeat)

(Before Ending "Fill") Φ

4

8 (Fill)

Ride

4

8 (Fill)

D.C. al Coda

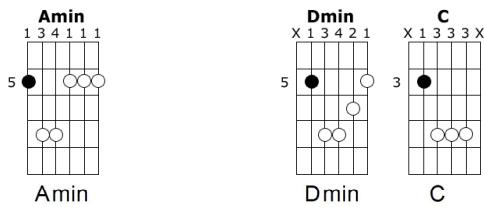
Hat Open

Week 5

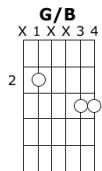
今週はシンコペーションリズムについて練習したいと思います。シンコペーションとはある音符の裏拍から、次の音符の強拍までをタイによりひとつの音としてつなげている状態で、“くう”や“くい”という言い方をしたりします。シンコペーションは多くのスタイルで多用されるリズムでとても重要です。

A musical score consisting of three staves of music. The top staff starts with a key signature of one sharp (F#) and a tempo of 120 BPM. The lyrics are: Amin, Dmin, C, G, F, G. The middle staff starts with a key signature of one sharp (F#) and a tempo of 120 BPM. The lyrics are: C, G/B, Amin, F, G. The bottom staff starts with a key signature of one sharp (F#) and a tempo of 120 BPM. The lyrics are: Amin, G, F, G, A♭, B♭, C, C. The score includes markings such as a fermata over the first note of the first staff, a measure number '5' above the second staff, a 'D.C. al Coda' instruction, a measure number '9' above the third staff, and a 'Fine' instruction at the end of the third staff.

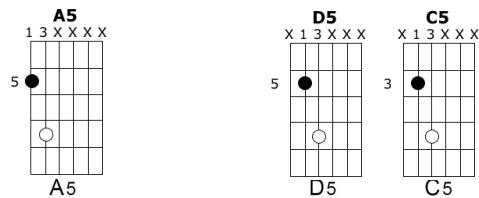
Guitar Part 1: Part 1 では指定されたトライアドコードでシンコペーションの練習をしましょう。



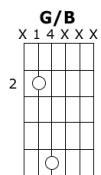
一般的に **G/B** のような分数コードは（トライアドコードの第 1 転回形または、トライアドコードの 3 度の音をベースに置いて演奏します。）下に例をあげます。



Guitar Part 2: Part 2 ではミュート奏法を使った八分音符のシンコペーションを練習しましょう。



パワーコードが頻繁に出てくるコード進行の場合、G/B コードは G トライアドコードの第 1 転回形を使います。次回はこの分数コードを使うコード進行について学びましょう。



シンコペーションは、殆どどの楽曲に何らかの形で含まれているリズムです。キー・ポートでシンコペーションを弾く場合、リズムが突つ込みがちになりやすいので意識して注意しましょう。シャッフル等と同じ様に正しいタイミングを体の感覚で覚える事が大切です。

Keyboard Part 1: シンコペーション以外は伸ばす音で

Am Dm C G F G Am

Keyboard Part 2: 8分音符でのプレイを基本にシンコペーションを含ませる練習

Am Dm C G F G Am

Bass: シンコペーションした後のリズムに気をつけてプレイしよう！

Bass Variation:

Drums: シンコペーションの感覚を練習。キックがウラで登場するので、それにつられてハットやスネアが不安定にならないように。キメの間をスネアやタムで埋める代表的なセクションアプローチを記してある。コーダ内最後のアクセントは通常のものよりもサウンドを「太く」余韻を「短く」という記号で表されている。

Rock 8 Beat $\frac{1}{8} = 126$

Count Stick 1 2 1 2

(D.C. Time Repeat)

Week 6

今週のテーマは前回同様、シンコペーションのリズムが多く入っています。それと同時に分数コードも多く見られます。一般的に分数コードは分母に示された音と、分子に示された和音を同時に弾くことですが、分母で示された音が必ずしもコードの根音とは限りません。

例えば、コードの転回型を作るときに発生する、基となるコードの3度、5度、7度を分数コードの根音として使用する場合です。また、分数コードを使用することにより、9th や 11th のテンションコードを簡潔に表現することも出来ます。例として譜例2 小節目の Bb/C(Bb トライアドコードに C を根音として使用)スラッシュコードは min11 コードの響きがします。

譜例ではベーストが C 音を 8 小節弾き、(常に同じ音を弾いています。)次の分数コードを弾く場面が来たら Bb/Ab コードの Ab を弾きます。この Ab の音は Bb からの b7th の音になり、Bb7 コードの 7th ベースと考えられるでしょう。

また、13 小節目の Bb/D コードでは Bb トライアドの 3rd にあたる D の音が根音になっています。14 小節目の Ab/Eb では Ab トライアドコードの 5th が根音になっています。

ここでのポイントは分数コードの分子にあたるコードが下降しているのに対し、根音が上昇しているという点です。これを “contrary motion” といいます。

The musical score consists of five staves of music. Staff 1 (measures 1-4) shows a bass line with labels: C-7, Bb/C, C-7, Bb/C. Staff 2 (measures 5-8) shows a bass line with labels: C-7, Bb/C, C-7, Bb/C. Staff 3 (measures 9-12) shows a bass line with labels: A♭, Bb/A♭, A♭, A♭, B♭. Staff 4 (measures 13-14) shows a bass line with labels: C-, Bb/D, A♭/E♭, B♭. Staff 5 (measures 15-16) shows a bass line with labels: Cm, Bb/D, A♭/E♭, B♭, Cm. The score includes dynamic markings like 'D.C. al Coda' and harmonic analysis labels like 'C-7', 'Bb/C', 'A♭', 'B♭', 'Cm', and 'Bb/D'.

Guitar Part 1 – 以下に挙げるコード進行ではベーシストが根音を弾いているため、ギターパートが根音を弾く必要はありません。しかし、ロックスタイルの場面ではギタリストも根音を弾く場合があります。

5

Cmin7
2 X 3 3 3 X
8 ● ○○○

Bb/C
3 X 4 2 1 X
8 ● ○○○

C-7 Bb/C C-7 C-7 Bb/C

9

Ab
1 3 4 2 1 X
4 ● ○○○

Bb/Ab
2 X 1 1 1 X
4 ○○○

Bb
X 1 3 3 3 X
1 ● ○○○

A♭ B♭ A♭ A♭ B♭

13

Cmin
X 1 3 4 2 1
3 ● ○○○

Bb/D
X 3 1 1 1 X
3 ○○○

Ab/Eb
X 3 4 2 1 X
6 ○○○

Bb
X 1 3 3 3 X
1 ● ○○○

C- Bb/D A♭/E♭ B♭

シンコペーションの応用実際の曲ではシンコペーションする所としない所が混在しています。
譜面(コード譜を含む)を見て、シンコペーションするのかしないのか素早く判断しなければなりません。

Keyboard Part 1:シンコペーションする所以外は伸ばす音で練習

Cm7 B♭/C Cm7 Cm7 B♭/C Cm7

Keyboard Part 2:4分音符でのプレイを基本に、8分のシンコペーションに応用する練習

Cm7 B♭/C Cm7 Cm7 B♭/C Cm7

Bass: 8分休符は左手か右手でしっかりビートに合わせて Mute し、シンコペーションした後のリズムに気をつけて演奏する。

Cm7 B♭/C Cm7 Cm7 B♭/C Cm7

5 Cm7 B♭/C Cm7 Cm7 B♭/C

9 A♭ B♭/A♭ A♭ A♭ B♭ Cm7

13 B♭/D A♭/E♭ B♭ Cm7

D.C. al Coda

15 Cm7 B♭/D A♭/E♭ B♭ Cm7

Bass variation:

1 Cm7 B♭/C Cm7 Cm7

5 Cm7 B♭/C Cm7 Cm7

9 A♭ B♭/A♭ A♭ A♭ B♭ Cm7

13 Cm7 B♭/D A♭/E♭ B♭ Cm7

D.C. al Coda

15 Cm7 B♭/D A♭/E♭ B♭ Cm7

Drums: シンコペーションをハットオープンでアプローチする例。キック、シンバルを使った大掛かりなキメとの連動にチャレンジ。エンディングの3連符を使ったフィルはクラシックロックでは王道のフレーズ。コンビネーションフィルの代表的なものである。

Med Rock 8 Beat $\frac{1}{16}$ 116

Count Stick 1 x 2 x x 1 x 2 x x

Ride

D.C. al Coda

Week 7

今週はレゲエについて学びましょう。

レゲエは1960年代にジャマイカという国から盛んに演奏されるようになったジャンルの一つで、スカとロックステディー、アメリカのR&Bを融合させた音楽です。

レゲエの特徴は”スカよりゆっくりのテンポ”で、”ロックステディーより速い”ということに加え、アクセントが”オフビート(2拍目と4拍目)”に置かれているという二つの特徴があります。

また、あらゆるロックミュージシャンにも愛され、Eric Clapton は “I Shot the Sheriff” という曲でレゲエのリズムを起用しています。

1970年代にはレゲエのリズムを取りいれた全く新しいジャンルが誕生します。それがThe Clashに代表されるPUNKやThe Policeなどのバンドです。

Bob Marley や Peter Tosh はレゲエというジャンルを代表するアーティストなのでこの機会に聞いてみて下さい。

Cmaj7

F maj 7

D_{min}

C

G

G

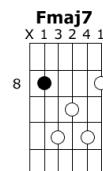
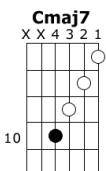
1

D.C. *et al.* Coda

Φ C maj7



Guitar:



C maj7

F maj7

Keyboard: レゲエでのスタンダードな演奏を練習します。ここでは同じパターンを使い、スタッカート(=音を短く切る)とテヌート(=音を音符いっぱいまで弾く)の違いを理解します。

CM7

FM7

Dm C G

CM7

Bass: 2拍&4拍をしっかり感じてリズムが走らないように気をつけながら演奏する。

♪ = ♪
A Cmaj7 Fmaj7
 [A] ♫ Cmaj7 Fmaj7

Dm C G ✕ ♫
B Dm C G ✕ ♫
 simile ~

♪ Cmaj7
 ♫ Cmaj7

D.C. al Coda

Bass Variation:

Drums: ダブルバーカウントだがピックアップフィルが入る典型的な例。”Straight”と表記したように、まずは「ハネ」ないフィールでトライ。レゲエのグルーヴは独特。キックを少し重いイメージでしっかり踏み、ハットはしっかり閉じたタイトなサウンドをキープすると雰囲気は出しやすい。
スネアは「リムショット」とも言われるクロススティック奏法で演奏する。

Reggae(Straight) $\frac{1}{150}$

Count Stick 1 X X 2 X X

Dr. Pick Up

(D.C. Time Repeat)

Tight Close Hat > >

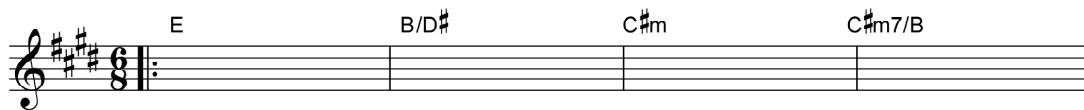
(Fill)

D.C. al Coda

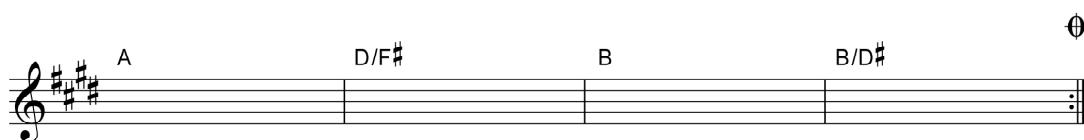
Fill Sample

Week 8

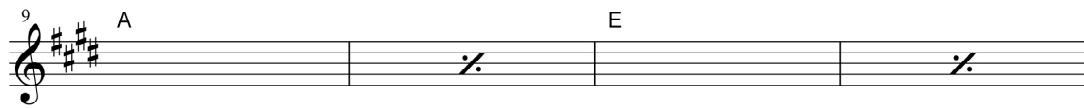
今週は 6/8 拍子について紹介していきたいと思います。この曲調は 50 年代～60 年代初頭にかけてよく聴かれるようになりました。代表的な曲には(“When a Man Loves a Woman” performed by Percy Sledge)があり、3 連符のリズムと、4 拍目にコードカッティングを弾くのが特徴的です。



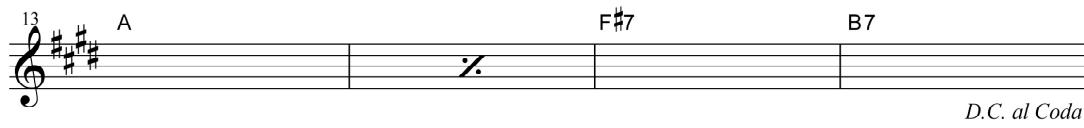
6/8 time, G major. Measures show E, B/D# (with a vertical line), C#m, and C#m7/B.



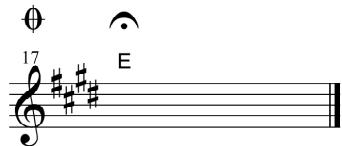
6/8 time, G major. Measures show A, D/F# (with a vertical line), B, and B/D# (with a vertical line). The last measure ends with a repeat sign.



6/8 time, G major. Measures show 9 A, E, and two rests.



6/8 time, G major. Measures show 13 A, F#7, and B7. The text "D.C. al Coda" is written below the staff.



6/8 time, G major. Measures show a rest, a fermata over E, and E.

Guitar Part 1 – 以下は 3 連符のアルペジオを強調させたパターンです。

The diagram shows a guitar neck with two chord diagrams and a musical staff below. The first chord, labeled 'E', has a 'X' at the top and the string numbers '4 3 1 2 X' below. Its fret positions are: 6th string (open), 5th string (open), 4th string (open), 3rd string (solid black dot at 1), 2nd string (open), 1st string (open). The second chord, labeled 'B/D#', has an 'X' at the top and the string numbers '3 1 1 1 X' below. Its fret positions are: 6th string (open), 5th string (open), 4th string (solid black dot at 1), 3rd string (open), 2nd string (open), 1st string (open). Below the chords is a musical staff with a treble clef, a key signature of four sharps, and a 'Simile ~' instruction. The staff has six vertical stems, each with a downward-pointing arrow, indicating a six-beat measure.

Guitar Part 2 – 4拍目に弾く歯切れの良いコードカッティングを弾く際に、分数コードが出てきたときはベース音を無視し分子部分のコードのみ弾くと良いでしょう。

The musical score shows a treble clef, a key signature of two sharps (E major), and a measure consisting of two eighth notes. The instruction "Simile ~" is written in a cursive script below the staff.

Keyboard -

E B/D \sharp C \sharp m C \sharp m7/B

A D/F \sharp B B7/D \sharp

E B/D \sharp C \sharp m C \sharp m7/B

A D/F \sharp B B7/D \sharp

13 A E

A F \sharp 7 B7

E

Bass - スネアにタイミングを合わせ、リズムがはしないようにしっかりキープしよう。

A

E B
D♯

simile —

A D
F♯

B B
D♯

B

A ✕

E ✕

Coda

A ✕

F♯7

B7

E

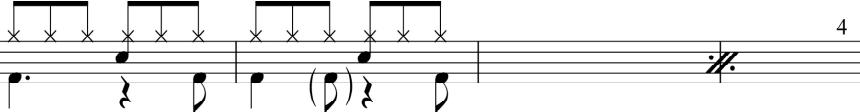
*D.C. al Coda
with Repeat*

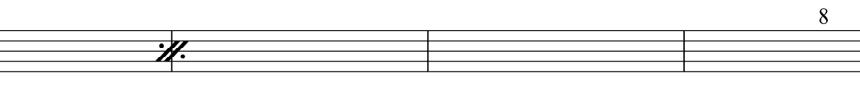
Bass Variation -

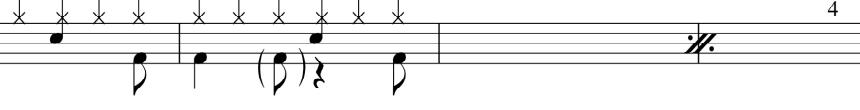
Drums - リズムのクラスター(かたまり)が3つの音で構成されている形に特徴がある。3連符と解釈して4／4拍子内で表記される場合もあるが、代表的な例として6／8拍子で記譜されたパターンを載せた。クラスターが2つで1小節の捉え方をする。数々の名曲に取り入れられたワールドスタンダードなフィール“ロッカバラード”である。細かいフレーズを組み込む事もよくあり、ハネたりハネなかつたりなどのニュアンスも多彩に見られる。

Slow(Trip Feel) *Count Stick*

(D.C. Time Repeat)

A 

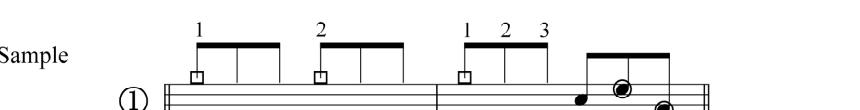
B 

Ride 

Fill 

D.C. al Coda

Fill Sample

① 

② 

Week 9

今週はマイナーブルースについて紹介します。

今回のコード進行も基本的な 12 小節ブルース進行になっていますが、通常ブルースはシャッフルやロック調で演奏することがほとんどですが、マイナーブルースはよりファンキーに演奏することが多いのが特徴です。

それでは 2 つの代表的なマイナーブルース進行を紹介していきましょう。

Minor Blues Variation 1 – このコード進行は基本的にメジャーブルースのコード進行をマイナーコードへ変更したものになります。また、I のコードにスムーズに繋げるため V のコードがマイナーコードではなく、ドミナントコードを弾く場合が多くあります。

このマイナーブルースコード進行の良い例として、“Green Onions” /Booker T and the MGs、“Help Me” /Sonny Boy Williamson が挙げられます。

i	i	I	i
iv	iv	I	i
v	iv	I	(V)

上記コード進行を参考に、下記譜例の空欄に最適なコード進行を書きましょう。

12小節の A マイナーブルース

Amin7			
Dmin7			
Emin7			E7

12小節の C マイナーブルース

Cmin7			
			G7

12小節の G マイナーブルース

Gmin7			

12小節の F マイナーブルース

Fmin7			

Minor Blues Variation 2 – 次に紹介するコード進行は bVI と V のコードを含んでおり、ドミナントコードで弾きます。I と IV コードに関しては min コードまたは min7th コードを弾きます。このマイナーブルースコード進行で代表的な曲は “The Thrill is Gone” released in 1969 by B.B. King の曲です。

i	i	i	i
iv	iv	i	i
bVI	V	i	V

上記コード進行を参考に、下記譜例の空欄に最適なコード進行を書きましょう。

12小節の A マイナーブルース

Amin7			
Dmin7			
F7	E7		E7

12小節の C マイナーブルース

Cmin7			
Ab7			G7

12小節の G マイナーブルース

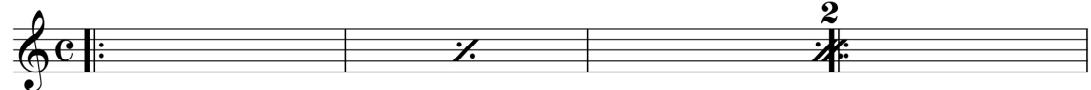
Gmin7			

12小節の D マイナーブルース

Dmin7			

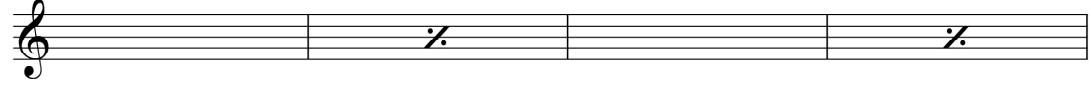
今週はミディアムテンポのファンクリズムで 1 小節目から 12 小節目まで演奏し、リピートマークまで来たら 1 小節目まで戻りサイド 12 小節目まで演奏します。そのあと“D.S. al Coda”からセニヨマークに戻り、コーダマークが来たら、13 小節目のところまで移動し演奏します。

Am7



Dm7

Am7



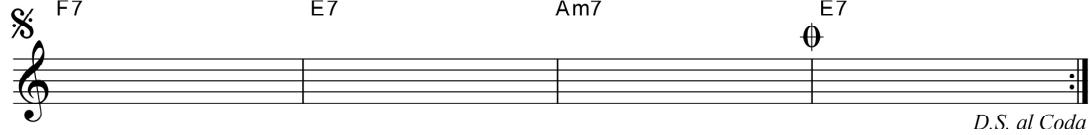
F7

E7

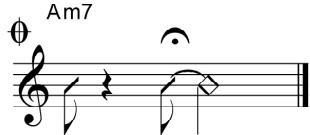
Am7

E7

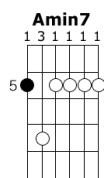
D.S. al Coda



Am7



Guitar Part 1 -このコードを演奏すときは1~3弦の音を強調させるように弾くと良いでしょう。

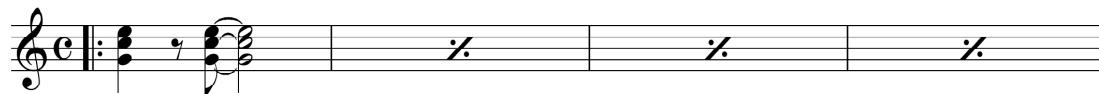


Am7



Keyboard –

Am7



Dm7

Am7



F7

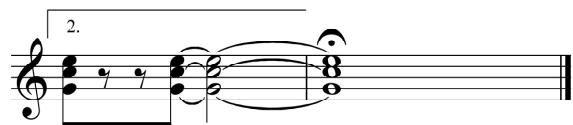
E7

Am7

E7



Am7



Bass – 8分音符のウラを意識してタイトにプレイしよう。Fill in のパターンも考えて入れてみよう。

Bass line score with various markings and chords. The score consists of four staves of music. The first staff starts with A_{m7} , followed by a bass clef, a 'simile' instruction, and a double slash. The second staff starts with D_{m7} , followed by a bass clef and a double slash. The third staff starts with $F7$, followed by a bass clef. The fourth staff starts with A_{m7} , followed by a bass clef, a Φ symbol, and $E7$. The score concludes with a bass clef, a Φ symbol, and A_{m7} , followed by a bass clef and a circled 'D.C.' instruction. The final measure ends with a double bar line and a bass clef.

Bass Variation :

Bass variation score. It shows a bass clef, a A_{m7} chord, and a bass line consisting of a note with a 's' above it, a note with a 'd' below it, and a bass clef.

Drums - 8 ビートの基本型(特に KICK のパターン)に SNARE の 16 分音符フレーズを追加してジャンプフィールを強調した例である。少しファンキーな感じになり「リズムのクッション」が表現しやすく R&B などでよく耳にすることが出来る。SNARE に関しては、バッビートのポイント以外(ゴーストノート)のニュアンス出しが個性を磨く上でも重要になってくる。2 カッコ内はエンディングのキメに向かってしっかりビルトアップすること。

16 Beat Feel Count Stick 1 X X X X Fill In Start

4

8

1. 12 (Fill)

2.

Fill Sample

Rythm Pattern Variation

Week 10 - この 16 小節ブルース・ロックスタイルのグルーヴはスティーヴィー・レイヴォーンの曲から抜粋しました。このパターンでは出来るだけベースとギターのユニゾンラインを合わせられるようにして演奏して下さい。

The musical score consists of six staves of music in 4/4 time, featuring a treble clef and a key signature of four sharps (F# major). The score is divided into four sections by vertical bar lines. The first section starts with a single note followed by a sixteenth-note pattern. The second section begins with an E7(#9) chord, followed by a B7(#9) chord. The third section begins with an E7(#9) chord, followed by a B7(#9) chord. The fourth section begins with an A7 chord, followed by an E7(#9) chord. The score concludes with a section labeled '1.2.' followed by a section labeled '3.' with a repeat sign.

Guitar Part 1 - #9コードはジャズでは頻繁に出てくるコードですが、このコードはジミ・ヘンドリクスが使用したのがきっかけで今では多くのブルースやファンクなどのポピュラー音楽で使用されるようになりました。

Guitar Variation - これは 7#9 のバリエーションで音の積み方が変わります。雰囲気の違うコード感を自由に織り交ぜて練習しましょう。

Keyboard – リズム隊とのコンビネーションが大切です。パーカッシブな演奏を心がけて音符の長さや休符の長さを調整してみましょう。

1 E⁷⁽⁹⁾

6 2 B⁷⁽⁹⁾

10 E⁷⁽⁹⁾ A⁷

14 E⁷⁽⁹⁾ B⁷⁽⁹⁾ 1.2. E⁷⁽⁹⁾

18 3. E⁷⁽⁹⁾

Bass - ファンクベースの基本グループとして様々なジャンルに応用できるパターンです。16 ビートを感じながらアタックに注意して、自分のモノになるまでフレーズバリエーションも練習しましょう。

Bass Variations -

Variation 1:

Variation 2:

Variation 3:

Drums – ジェームス・ブラウンバンドに代表される古典的ファンクの形。8分音符の強烈なスリップビートが特徴。拍のアタマとウラをしっかり意識する事が重要。16分音符のゴーストサウンドのコントロールによってよりスピード感が出てくる。キメ(ブレイク前のウラ止まり)は迷わずプレイするよう。出来ればメタルのスネアでトライしてもらいたい。

$\text{♩} = 150$

4

8

12

16

Fill

Fill

Chapter 11 -今週の課題はポピュラーロックのグルーヴです。連続するシンコペーションとユニゾンフレーズをみんなでズレないように気をつけて演奏しましょう。

$\text{♩} = 130$

4/4

130

C G F simile ~ C

F Dm G

Am F G Am Bb F

Am Bb F G G

D.S. al coda

Φ G G

Guitar -Aセクションは5フレットのポジションをキープしたままのヴォイシングで演奏します。Bセクションはパワーコードです。

Chord diagrams for the first section:

- C**: Fret 5, strings 3, 1, 1, 1, X (X marks strings 2 and 4)
- G**: Fret 8, strings 2, X, 1, 3, 4, X (X marks string 5)
- F**: Fret 8, strings 4, 3, 1, 2, X (X marks string 5)
- C**: Fret 5, strings 3, 1, 1, 1, X (X marks strings 2 and 4)

Musical notation:

4/4 time, treble clef. The first four measures show the chords C, G, F, and C. The fifth measure is a repeat sign, followed by a measure of rest.

Chord diagrams for the second section:

- F**: Fret 8, strings 4, 3, 1, 2, X (X marks string 5)
- Dmin**: Fret 5, strings 1, 3, 4, 2, X (X marks string 5)
- G**: Fret 8, strings 2, X, 1, 3, 4, X (X marks string 5)
- G**: Fret 8, strings 2, X, 1, 3, 4, X (X marks string 5)

Musical notation:

4/4 time, treble clef. The first four measures show the chords F, Dm, G, and G. The fifth measure is a repeat sign, followed by a measure of rest.

Chord diagrams for the third section:

- Amin**: Fret 5, strings 1, 3, X, X, X, X (X marks strings 2, 4, and 6)
- F**: Fret 1, strings 1, 3, X, X, X, X (X marks strings 2, 4, and 6)
- G**: Fret 3, strings 1, 3, X, X, X, X (X marks strings 2, 4, and 6)
- Amin**: Fret 5, strings 1, 3, X, X, X, X (X marks strings 2, 4, and 6)
- Bb**: Fret 1, strings 1, 3, X, X, X, X (X marks strings 2, 4, and 6)
- F**: Fret 1, strings 1, 3, X, X, X, X (X marks strings 2, 4, and 6)

Musical notation:

4/4 time, treble clef. The first six measures show the chords Am, F, G, Am, Bb, and F. The seventh measure is a repeat sign, followed by a measure of rest.

Chord diagrams for the fourth section:

- Amin**: Fret 5, strings 1, 3, X, X, X, X (X marks strings 2, 4, and 6)
- Bb**: Fret 1, strings 1, 3, X, X, X, X (X marks strings 2, 4, and 6)
- F**: Fret 1, strings 1, 3, X, X, X, X (X marks strings 2, 4, and 6)
- G**: Fret 3, strings 1, 3, X, X, X, X (X marks strings 2, 4, and 6)
- G**: Fret 5, strings 1, 3, X, X, X, X (X marks strings 2, 4, and 6)

Musical notation:

4/4 time, treble clef. The first five measures show the chords Am, Bb, F, G, and G. The sixth measure is a repeat sign, followed by a measure of rest.

Keyboard - A セクションは全音符ですが、4小節、8小節パターンになるような音の積み方で大きな流れを考えてみましょう。

§ 1.2

1.2

4/8

5 F Dm G

9 Am F G Am Bb F

13 Am Bb F G

17 C

D.S 1.2 al Coda

Bass - シンコペーションのフレーズ時にも1拍目のビートを意識する。A セクションと B セクションの差異はダイナミクスを意識して表現。8 Beat Rock Bass だけ8分くらいしてあるところがあるので注意。2 小節で1つのグルーヴを感じ作れるようにプレイする。

A

B

simile ~

D.S. 1.2. al Coda

Drums - シンプルな8ビートで再度音源の一致感を確認してみよう。フィル後やシンコペーション時のキックとシンバルの合致をより強く意識するように。バックビート(スネアの2,4)を少し重くしたり、キメを少し突っ込み気味にプレイする等、表情をつけることにテーマを見つけてほしい。

$\text{♩} = 130$

Fill

A

B

D.S. al Coda

Chapter 12 -

Sheet music for Chapter 12. The vocal melody consists of the following chords: C, A⁷, D⁷, G⁷, G⁷, G⁷, G⁷. The section from G⁷ to G⁷ is labeled "repeat 4 times". A "Guitar Fill" section follows, consisting of the chords C, G, and C.

Guitar -

Sheet music for the guitar part of Chapter 12. The guitar part follows the vocal melody, starting with the chords C, A⁷, D⁷, G⁷, G⁷, G⁷, G⁷. The section from G⁷ to G⁷ is labeled "repeat 4 times". A "Guitar Fill" section follows, consisting of the chords C, G, and C.

Keyboard - リズムギターとユニゾンフレーズになるが、音の長さなどで遊びを加えたりフィルに参入することもあり。

Bass - Beat Country 2/2 表記で譜面の流れが以外と速いので注意し、コードチェンジするところにラインを入れて演奏します。ベーシックはリズムギターとのコンビネーションで疾走感をキープする。リピートごとにシンコペーションのパターンなど考えてみても良い。

12-bar blues progression in C major. The chords are C, A7, D7, and G. The bass line is provided for each chord. The first two measures of the G chord section are marked with a 'simile' instruction.

Chords: C, A7, D7, G

Bass Line:

- C Chord:** Bass notes: D, G, B, E.
- A7 Chord:** Bass notes: D, G, B, E.
- D7 Chord:** Bass notes: D, G, B, E.
- G Chord:** Bass notes: D, G, B, E.

Simile (Measure 11):

Simile (Measure 12):

Bass Variation :

Drums - カントリーテイストのジャンプナンバー。4/4ではなく2/4で表記されている事に注目。細かい刻みを大きなタイム感でプレイすること。デモではタムのリムをコンビネーションで入れているが、別に違う音源でも構わない。実際のカントリーミュージックでは、ハネないでイーブンフィールでプレイされている場合が多く見られる。

125 *Fill*
4
8
12
Fill
•
•

Chapter14

Bass - 2 Beatを感じてソフトなタッチでプレイ。コードとコードの繋ぎ目を大切にし、ラインなどを入れて演奏する。

Drums - ブラジル音楽（サンバ等）をルーツとしたワールドスタンダードなグルーヴである。譜面はポップスシーンでよく目にする表記のパターンで、リーディングの際リズムフィールと右に進む早さのバランス感に慣れる事。ボサノバにおいては、ほとんどフォルテプレイは必要なく、滑らかに刻むように心がけるように。3拍目に少しテヌート感を出すとネイティブなフィールが出しやすい。

The musical score consists of several staves:

- Bass (Top Stave):** 2/4 time, C-clef, tempo 120. It features two eighth-note pairs per measure, with a fermata over the second measure and a repeat sign with a '4' below it.
- Drums (Staves A and B):** 2/4 time, C-clef. Staff A shows a pattern of eighth-note pairs with a 'simile' instruction. Staff B is blank. A repeat sign with an '8' below it is positioned between the two staves.
- Drums (Bottom Stave):** 2/4 time, C-clef. It shows a continuous eighth-note pattern with a circled 'D.S. al Coda' instruction.
- Drums (Bottom Stave):** 2/4 time, C-clef. It shows a continuous eighth-note pattern with a '4 Fill' instruction.
- Bass (Bottom Stave):** 2/4 time, C-clef. It features eighth-note pairs with circled 'o' above them.